

News

応用生命化学実験Ⅱ

5月19日(火)より、学部3回生が受講する応用生命化学実験Ⅱの食品・栄養化学研究室の担当期間が始まった。期間は約1ヶ月が予定されており、昨年と同様に野菜から抽出した成分を用いてマウスや培養細胞を使った抗アレルギー評価試験を行った。前半戦となる5月は野菜からのポリフェノール抽出と、抽出した成分のマウスへの投与を行った。



刻んだ野菜を量り取る B3 の学生達。今年はピーマン、ブロッコリー、セロリを用いて実験を行う。



抽出した成分をエバポレーターで濃縮している様子。B3 の学生二人を前に、先輩らしく指導を行う池崎大志(B4、左端)。



マウスに投与する試料を調整する B3 の学生達。初めはなかなかできなかったマウスの保定や投与も、回数を重ねるごとに上達してきている模様。

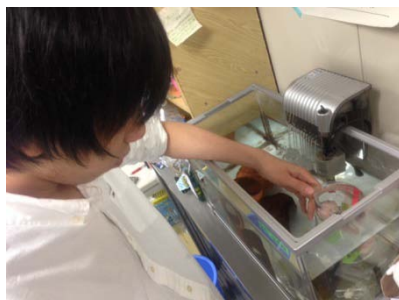
来月からはいよいよ抗アレルギー評価試験が行われる。その実験操作の中で最大の難関であろう尾静脈注射(マウスの尾の血管に注射するもの)は、B3 に指導する立場にあるTA達もこれまで苦戦しながら練習に練習を重ねてきた。果たして実験を成功させることはできるのだろうか...? 来月号もお楽しみに!

生き物係決定!

かつては研究室のアイドルとまで呼ばれたウーパールーパーの「うぱね」。久しく食品ニュースに登場しておらず、消息を心配されていた方もおられたかもしれませんが、ご安心ください。彼女はいまだに周りから可愛がられ、日々元気に成長を続けています。このうぱねの世話をする今年度の生き物係が吉川啓明(B3)、渡辺衛央(B3)に決定しました!



今では水層の横幅と同じ位の大きさまで成長したうぱね。いったいどこまで大きくなるのだろうか、...



水層を洗う前にいったんうぱねを計量カップですくい出し非難させる吉川(B4)。なんとも豪快である。



水層やポンプを丁寧に掃除する吉川(B4、右)と渡辺(B4、左)。その真剣な様子から彼らのうぱねへの愛が伝わってくる。

こうしてうぱねの生活環境は今後とも快適に保たれていくことであろう。吉川君と渡辺君に感謝!

著書

水野雅史、橋本堂史、27 節 炎症性腸疾患、第 6 章 効能ごとの機能性、安全性評価法と製品プロモーションに有用な科学的データの示し方、機能性食品表示への科学的なデータの取り方と表示できる許容範囲、(株)技術情報協会、東京、338-344, 2015

編集後記

今月は学生実験という一大イベントが始まり、その準備や指導、ハプニングへの対応と大忙しでした。来月半ばまで続きますが、最後までしっかりとサポートできるようにがんばります。また、B3 と仲良くなれるいい機会だと思うので親睦を深めていきたいです。

中村紫乃(M1)